

AIDS UPDATE

No.76 2007. 8. 24

広島大学病院
エイズ医療対策室
内線5581(輸血部長室)
Internet:www.aids-chushi.or.jp



第13回 看護師のためのエイズ診療従事者研修 ご報告

8月1日～2日にかけて、中国四国地方のエイズ診療拠点病院の看護師を対象とした『第13回看護師のためのエイズ診療従事者研修会』が開催されました。

今回の参加者は11名。2名の参加者を除き、これまでHIV/AIDS看護に関わったことのない参加者が殆どでした。医師・看護師・薬剤師・カウンセラーにソーシャルワーカーからの講義では、患者様に対するチームでのアプローチや専門性の違いについて学び、他にもセクシャリティーの多様性や、当事者からの体験談まで、2日間にわたる内容の濃い研修会となりました。

台風の影響もあり、最後まで研修を受けられなかった参加者がでてしまったのは非常に残念でしたが、研修会のプログラムと研修後の参加者の感想文からいくつかを紹介します。



研修会プログラム

【研修1日目】

- 9:00～ オリエンテーション
- 9:30～ 『HIV/AIDSの基礎知識』
- 10:40～ 『エクササイズ：自分の価値を位置づける』
- 11:20～ 『抗HIV薬の服薬援助について』
- 13:20～ 『エクササイズ：賛成？反対？』
- 13:50～ 『セクシャリティーについて』
- 15:10～ 『心理的支援について』
- 16:10～ 『当事者の体験談』

【研修2日目】

- 8:30～ 『外来における看護師の役割について』
- 9:30～ 『HIVと社会生活支援』
- 10:00～ 移動・外来見学
フリーディスカッション
- 13:30～ ロールプレイ
- 14:30～ 参加者感想
- 14:50～ 修了証授与
- 15:15～ 閉会の言葉



慢性疾患とはいえ、セクシュアリティを含んでいるこの疾患の心理的サポートは難しいと思った。チーム医療の重要性を改めて再認識することができました。

性感染について、偏見を持たず自然に受け入れようと思っていたが、頭では理解できて感情で受け入れることができていなかった自分の価値観に気付くことができました。

研修を受ける前は、HIV/AIDSに関して知識くらいは持っていると思いましたが、知らないことが多くあると感じました。もはや死ぬ病気ではなく、慢性疾患として付き合っていく病気だと知り、医療者側にも誤解をしている者がいるとしたら、今後はその情報を訂正していく側になりたいと思います。

当院でのHIVに関するシステムの構築、マニュアルの作成、チーム編成等、多くの課題を持って帰ります。





広島市HIV抗体検査従事者研修会

8月17日（金）にHIV抗体検査従事者研修会が開催されました。当院からは、輸血部藤井医師、エイズ医療対策室 喜花臨床心理士と私後藤が、広島大学保健管理センター内野臨床心理士とともに講師として参加しました。

広島市は、昨年7月、中区保健所の夜間検査を皮切りに、HIV抗体検査に迅速検査（即日検査）を導入し、各保健所に拡大していることもあり、受検者数が増加しています（下図参照）。

年度	検査件数	前年度比
平成14年度 （通常検査）	689	-
平成15年度 （通常検査）	787	+98
平成16年度 （通常検査）	842	+55
平成17年度 （通常検査）	943	+101
平成18年度 ¹ 通常検査 迅速検査	1,224 (584) (640)	+281
平成19年度 ² （見込み）	1,800	+576
平成19年7月末 現在	661	-

1 平成18年7月から夜間検査（中保健センター）、10月から中保健センター、3月から東及び安芸保健センターで迅速検査を開始

2 平成19年4月から安佐北・安佐南・佐伯及び南保健センター、6月から西保健センターで迅速検査を開始

これまでの通常検査では、スクリーニング検査と確認検査を終え、1週間後に検査結果の告知を行っていましたが、迅速検査を導入してからはスクリーニング検査で陽性となった場合にはその事を伝え、1週間後に再び受検者に確認検査の結果を聞きに来てもらうようになります。このことを医師が丁寧に伝えることが必要になりました。



動揺する受検者に、偽陽性かもしれないし、本当に感染しているのかもしれないということを説明し、受検者の理解を得て1週間後に検査結果を聞きに来てもらうことは容易ではありません。

そのため今回の研修では、広島市保健所で実際検査にあっている医師が、迅速検査を導入して生じた問題を共有し、一緒に解決し、今後の検査の質の充実を図ることを目的として開催されました。また、市のほとんどの保健所で採血以外は医師一人で行っている抗体検査に、保健師・看護師にも関わってもらい、検査の拡大・質の充実を図ることももう一つの目的でした。

研修会では、藤井医師が「HIV検査と治療・告知の仕方」について、喜花臨床心理士が「告知後カウンセリング」について講義した後、医師グループと看護師＆保健師グループに分かれてディスカッションとロールプレイを行いました。





【2ページより 続き】

私は看護師 & 保健師グループへ参加しました。ディスカッションやロールプレイ、その後の感想では、色々な質問が飛び交いました。保健所で働く看護師と保健師のやる気が目に見えるような研修会となったので、私としては大変有意義な時間を過ごすことができました。

研修会后、広島市のエイズ担当の方とお話する時間がありました。その職員の方は、広島の抗体検査ができる場所を示したカード、ティッシュ、コンドームが1セットとなった啓発グッズをかごに入れ、ゲイバーに置いて回られているそうです。そして、お店に置いたかごからグッズがなくなったら、お店から電話をもらい補充に行っているということでした。また、抗体検査の受検者の方から新しく出来たゲイバーについての情報をもらい、そのお店に啓発グッズを持って行くこともあるそうです。

どこの行政でもHIVの予防についての予算が削減されており、広島市も財政的には厳しいようです。そんな中で、費用は抑えても事業の拡大を図ろうと尽力されている広島市の方の活動が印象に残りました。(看護師 後藤)



<ご意見募集>
ご意見やご希望がありましたら、エイズ医療対策室(5351/5581)までお寄せください。
[TAKATA]
nobotaka@hiroshima-u.ac.jp



第21回 日本エイズ学会学術集会・総会

21st Annual Meeting of The Japanese Society for AIDS Research, Hiroshima 2007

第21回大会メインテーマ

STEP UP! 情報・教育

情報の共有・教育の充実を通して、今より一歩前へ、STEP UP! していくことが今大会のメインテーマです。

会期： 2007年11月28日(水)～30日(金)

会場： 広島国際会議場(広島市)

